

当日参加者数：49名

アンケート提出数：31件

1. 本日のセミナーで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・電子書籍の動向や今後のトレンドについて知れて良かったです。また、大学で考えている LMS を使った計画についても知れてよかったです。
- ・千葉大学が目指すこれからの高等教育のあり方の一端が良くわかりました。
- ・E-Book について、出版社の側ではサイトの向こう側でよく利用状況を把握、分析していらっしゃるのだと思った。興味深い発表でした。直接には接点の少ない出版社の方の考えや、出版社の方々と大学の先生の議論は新鮮な視点を与えてくださるものでした。聴きがいがあります。
- ・シュプリング・ジャパンの田辺さんの発表（電子書籍の利用状況）は良かった。
- ・アカデミックリンクセンターの取り組んでいる内容が理解できました。特に、授業資料ナビと LMS に非常に関心を持ちました。
- ・アカデミックリンクの目指すもの、授業資料ナビの状況など。
- ・シュプリングさんや DNP さんからのお話も非常に興味深かったです。
- ・電子書籍はロングテールの商品であること。大学としての取り組みについて。
- ・授業資料ナビに関して、学生の本のセレンディビリティを意図されているという点が興味深く感じました。
- ・アカデミックリンクのめざしていること、課題としていることがより詳しく理解できました。シュプリングさんの報告は参考になりました。
- ・学術コンテンツについては、かなり長い間閲覧ニーズがあること。
- ・大学教育の電子化が始まったことがわかりました。
- ・図書館に書店を設置する構想は初めて知りました。
- ・シュプリング・ジャパン社様のご説明が印象的でした。
- ・ロングテールの存在
- ・eBook の学習・教育の現場での包括的な利用方法は様々な可能性が感じられ面白かった。
- ・電子ブックの利用動向の特徴を示していただき興味深かった（導入推進にあたって）アカデミックリンクセンターの授業資料ナビが図書館の支援として、大変参考になった。理工系の LMS について、本学でも教員と話してきたい。両先生のお話ともとても分かり易く拝聴いたしました。
- ・電子書籍への道しるべ「授業資料ナビ」- 川本、もっともっと知りたかった。図書館員の業務について等。授業資料ナビ作成にあたり。
- ・アカデミックリンクの中に”本屋”が入ったり、コンテンツを DNP と連携して提供するなど、外部との関わりがあること。
- ・授業資料ナビの実現に向けて我々書籍業界でどのような協力参加が可能か考えてみたい。全国の大学を横断にトータルな授業資料ナビの実現が望ましい。
- ・Springer の ebook の発行方針がよくわかりました（勉強になりました）。後は新発見なし（←前回に対して）。
- ・学生は大学の先生はもちろんですが、google も先生だと思っている節があります。google 以外の世界を知れるコンテンツが早く確立してほしいです。
- ・電子化されても紙は減らないのではないかということ。著作権のハードルについて。
- ・「実験」の意義の重要性。ディスカバリーツールの必要性。
- ・シュプリングの田辺氏のご講演はとくに新しい発見がたくさんありました。授業への応用も単に OPAC からリンクさせるというだけではなく、様々な方法を試行錯誤中だとうことがよくわかりました。
- ・とても有益なプログラムでした。書籍の電子化には雑誌の電子化の流れの中で経験してこなかったこと（教科書としての利用、著作権など）又、IT の発展による新たな可能性をチャレンジがあり、図書館、教員など大学サイド、ユーザー、出版社が提携して電子書籍の流通の拡大に向かっていかれればと思います。
- ・LMS の目指していることがよくわかりました。
- ・学術 eBook の利用の実態が統計的に把握できた。

2. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- ・LMS 等をつかって予習/復習等を学生にさせるようにしているようですが、実際に学生はPC/その他のデバイスなど、どうやって LMS を活用しているのかが知りたかったです（大学としてデバイスを各学生に提供するのかどうか？）
- ・これまで3～4年間授業資料ナビを運用してきて、学生の利用率はどれくらいか？また評価の声はどういったものが寄せられているのか？→失礼しました。図書館総合展の報告を拝見します。
- ・「大学図書館の過去からストックを活用することについて、アカデミックリンク的な視点からすると、どういった優先順位を図書館の所蔵資料につけることになるのでしょうか？」とぼんやりと思いました。貴重書から電子化する、劣化資料から電子化するといったアプローチがありますが、また別のアプローチがありそうですね。
- ・質問もさせて頂きましたが、やはりアカデミックリンクの評価については継続的に検討していかなければならない問題だと感じた。根本的に情報サービスの評価というのは非常に難しいものですが。。
- ・特にありません。
- ・日本の出版社が何故か電子化に遅れている？こと。その背景にあるダイナミクス。
- ・著作権処理と費用が大きな課題と思います。
- ・プリントオンデマンドをどのように行うのか？大日本印刷様が支援されるのか？
- ・授業資料の電子化
- ・国内の出版社が、大学教育で利用されるであろう学術コンテンツの電子化についてどのような考え、計画を持っているのか。もう少し意見を聞きたかった。
- ・「2.28 の話で版元が電子化をこぼんでいる」とのことが良くわからない（2.28 欠席したので）
- ・電子コンテンツの不適切な流通はどのように防止するのか。e Learning Tool, Discovery Tool がほとんどの大学で導入・活用されていくのか。
- ・シュプリンガーにおける電子書籍の利用対象について、卒業生への利用する為には、どのような計画が必要か？
- ・次世代授業資料ナビで図書館にある本しか紹介できないのは、学びの可能性が狭まるのではないのでしょうか。
- ・ディスカバリーツールが実現すればすばらしいことだと思う。ディスカバリーツールでの検索方法などについて知りたい。
- ・デジタルコースパックプロジェクト（＝著作権処理を正当に行うことで利用の便をよくする）によって、実際の使用量はどう変わってくるか。著作権者の交渉はどのような基調で行われているか→ディスカウント？
- ・千葉大アカデミックリンクセンターのような教育（授業）との相互連携は他の大学さんでも進んでいるのでしょうか。進んでいけば電子ブックのため以上に教育全体に対してよいことがと思います。←答え聞きました！
- ・授業資料ナビの意義は良く理解できたが、本来であればシラバスにその機能を持たせるべきものでないかと思えます。二重になっている気がします。

3. 今後もアカデミック・リンクではセミナーやシンポジウムを企画していきます。そこで、取り上げてほしいテーマや講師があれば、お書きください。

- ・Amazon の米国本社の方。先日、発表された電子書籍（教科書）の貸し出し（レンタル）のスキームを聞いてみたい。
- ・教材作成に関して。例えば、語学教材をオリジナルで作っている先生等の話。
- ・学習支援にどのように取り組まれるのか。センター内での役割分担。
- ・出版社からのコンテンツの提供（収集）の具体的計画。
- ・次回の著作権関連には興味があります。
- ・アカデミックリンクセンターの組織・運営はどうなるのか。図書館基盤、情報通信基盤、普遍教育センターとの連携の仕方、分担等。
- ・大学人がどれだけアカデミックリンクを知っているか？
- ・国内出版社の電子本の今後の動向。学術出版と商業出版の在り方、教育・研究機関との連携。
- ・電子書籍を利用した授業の事例（学生の反応）等
- ・学生の意見を聞く機会があれば……。アンケートでもいいのですが。
- ・に本出版インフラセンター、著作権者団体など、電子コンテンツ利用のキーポイントとなる方々の意見を聞く機会が欲しい。準公共的な機関で著作権と印税の包括的管理が求められていると考える。

3. 今後もアカデミック・リンクではセミナーやシンポジウムを企画していきます。そこで、取り上げてほしいテーマや講師があれば、お書きください。(続き)

- ・コンテンツの断片化(細分化)がいくつかの話題でキーワードになっていますが、その目的・効果・影響について、著者、大学、版元等各々の意見を交わして、詰めてもらいたいものです。勿論、よいところばかりではない。
- ・ディスカバリーツールの具体的な理想。
- ・電子ブックや Moodle を実際に使っているクラスルーム風景の紹介。/どのようなコンテンツが具体的に電子に適していると大学では考えられているか(教科書だけでなく)。特に英語コンテンツ。/e-Pub 利用実例。
- ・出版社グリル

4. 本日のセミナーの内容、電子出版、大学教育の情報化などについて、自由にご意見をお書きください。

- ・ディスカバリーツールの技術の一つにあげられている、読者型(販売履歴、ロコミ)は時としてミスリードしてしまうおそれがあり、それをセンターがどのように制御されるのか、または、あえてそこは制御しないのか興味がわきました。
- ・今回もお世話になり、どうもありがとうございました。
- ・大日本さんでの取組みの進展が聞きたかった(前回と同じ?だったので)。
- ・総体としての大学の意識がなかなか進まない中、アカデミックリンクセンターの取組みに大いに期待したいです。先生と図書館の連携など、示唆されることが多いセミナーでした。
- ・質疑応答の時間は非常に勉強になりました。有難うございました。
- ・川本先生の15分と白川先生の15分がずいぶん違う長さに感じました。共に事実を述べられただけ?のように思いますが。
- ・大学教育の情報システム化による支援体制という新しい取組みを知る機会となり、大変良かった。
- ・本日のセミナーはとてもよかったです。ありがとうございます。
- ・日本の出版業界にとって早急に解決しなければならないのは著作権問題ですね。これは政府を動かさないと難しいのではないのでしょうか。
- ・前回から進んだ部分が何なのか読みとれなかった。
- ・学生など利用者の電子出版、電子書籍への意見がもう少し聞きたかったです。
- ・時間がない。

5. 該当するものに○をつけてください。

- ア 学外から参加 (14件) イ 学内からの参加 (3件) 無回答 (14件)
a 学生 (2件) b 教員 (1件) c 大学職員(図書館員も含む) (5件)
d 出版関係 (7件) e.その他 (9件) 無回答 (7件)

千葉大学 アカデミック・リンク・センターでは、セミナーの開催や関連する情報を提供しています。これらの情報を希望される方は、お名前・ご所属・メールアドレスをご記入ください。(既に登録されている方は引き続きお届けしますので、空欄で結構です)

※12名が新規に継続的な情報提供を希望

以上

2011年7月27日/キャンパス・イノベーションセンター東京 国際会議室
アカデミック・リンク・セミナー(第2回)「求む、電子書籍！」
参加者 アンケート

千葉大学アカデミック・リンク・センターでは、「生涯学び続ける基礎的な能力」「知識活用能力」を持つ『考える学生』を育成することを目的とし、デジタル時代における大学の学習教育環境の改革に取り組んでいきます。今後の活動のために、本日のセミナーに参加されたご意見・ご感想をお寄せください。

1. 本日のセミナーで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

2. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

3. 今後もアカデミック・リンクではセミナーやシンポジウムを企画していきます。そこで、取り上げてほしいテーマや講師があれば、お書きください。

4. 本日のセミナーの内容、電子出版、大学教育の情報化などについて、自由にご意見をお書きください。

5. 該当するものに○をつけてください。

ア 学外から参加 イ 学内からの参加

a 学生 b 教員 c 大学職員(図書館員も含む) d 出版関係 e. その他

千葉大学 アカデミック・リンク・センターでは、セミナーの開催や関連する情報を提供しています。これらの情報を希望される方は、お名前・ご所属・メールアドレスをご記入ください。(既に登録されている方は引き続きお届けしますので、空欄で結構です)

お名前：()

ご所属：()

電子メールアドレス： 申込時に申請したもの それ以外()

ご協力ありがとうございました。